

墨田区議会

自由民主党会派報

発行
墨田区議会自由民主党
墨田区吾妻橋1-23-20
発行責任者 中村 光雄
編集責任者 出羽 邦夫

区議会ホームページ
<http://www.city.sumida.tokyo.jp/kugikai/>

第15期 墨田区議会議員 任期満了!! (4月30日まで)

第一回定例会において

「平成19年度予算」

「墨田区基本計画」

を決定しました。



4年間 区政伸展に努めた我が会派16名

平成19年度予算特別委員会

(2月20日～3月5日)

委員長 中沢 進
委員 早川 幸一 西原 文隆 中村 光雄
木内 清 出羽 邦夫 沖山 仁
桜井 浩之

桜井浩之委員

19年度予算に対する意見を開陳(概要)

墨田区議会自由民主党を代表し、議題に供された平成十九年度墨田区一般会計予算、国民健康保険特別会計予算、老人保健医療特別会計予算、介護保険特別会計予算案四件に対し賛成する立場で意見を述べさせていただきます。

平成十九年度予算は、区長の改選期直前の予算編成である。山崎界区長が再選に向けて、墨田区議会はもとより、区民へ向けた区経営の意気込みを表している様に見受けられる。安全・安心をコンセプトに防災対策、子育て支援、学力向上、観光まちづくり、区民の健康対策と優先緊急課題に予算対応をし、また、財政基盤強化への取り組みとして、基金積み立ての実施と、本格的な予算編成となっている。

昨年策定をした「墨田区新基本構想」及び「墨田区新基本計画」が、ここにスタートしたことになるが、同年誘致決定された「すみだ新タワー」建設に合わせた、押上・業平橋地区周辺まちづくりも新たな大事業となるわけで、新基本計画とのマッチングを図る中では、今後の経済状況に左右される事のない



左から田中邦友議長、中沢進予算委員長

財政見直しをもって、計画の着実な執行に努めて頂きたい。
また、今年度は墨田区政施行六十周年の節目という事もあり、六十年という長い歴史の検証、また、墨田区の未来へ向けたビジョンも含め、区内外へ発信しなければならぬと考える。地方分権が推し進められている今日、二十三区同色と言う

事ではなく、特色ある一自治体を形成することが、これからの墨田区発展の礎であると断言する。

ここで、山崎区政二期を振り返り、一時は財政再建団体へ転落かと思うような状況もあったが、墨田区議会と一枚岩で行政改革を断行し、その危機を乗り越え、平成十一年区長就任時は約七百五十億円あった特別区債残高も今日に至っては、平成十八年見込みでは約三百六十七億円と結果を出している。この度の予算編成についても、我が会派の予算要望がほぼ組み込まれている事から、この度の区長候補者として墨田区議会自由民主党は山崎界候補を推薦するものであり、当選後も引き続き協力体制を堅持し、財政健全化に向けて努力されたい。

それでは、今予算特別委員会を通じて問題提起した会派の意見要望の主な点を改めて述べさせていただきます。

まず、歳入においては、今年度実施される税のフラット化による大幅な特別区民税の増収が見込まれるが、これによって負担増になる弱者世帯に対する救済策が現行皆無である。徴収率が懸念される中で、何らかの対応を検討すべきである。また、区民税、国保料、その他滞納額については、引き続き横断的な仕組みを検討されたい。都区財調については、調整率五五%と都に押し切られた結果となり墨田区議会としても大変遺憾である。区長が座長を務められる「都区制度ありかた検討会」において、都区財源配分についても、墨田区の意見をしっかりと反映すべく東京都に挑んで頂きたい。新タワーに関連する新税については、よく検討すべきである。区有財産の有効活用については、できないではなく、どうやればできるのかよく検討すべきである。



新タワーで活力ある墨田を！(東武鉄道提供)

歳出においては、更なる職員定数の削減、清掃職員を含む特殊勤務手当ての見直し、公的施設の指定管理者制度導入及び区立保育園の民営化、区立保育園給食調理業務の民営化、また、庁舎内部事業の委託化など、更なる行財政改革を推し進め、特別区債の早期償還を望む。



墨田区所有の北斎版画より

主要事業について
防災対策であるが、新たな事業が盛り込まれ評価できる。施策として年々充実してきているが、防災に対する区民の防災意識の向上が不可欠であり、更に努められたらいい。また、災害時における医療体制も重要である。医師会との連携をより強化すべきである。

次に、子育て支援策については、子供医療費助成拡充については、我が会派の意見を反映され評価するものである。待機児については、受け入れ施設の誘致、また、新たな制度である「認定こども園」の活用と積極的に解消へ努められたい。特に子育て支援策については、在宅保育世帯のニーズ調査を実施し、施設保育と在宅保育の公平性を十分考え、施策の充実に努力願いたい。

子育て支援総合センターについては、子育て支援の核となる機能として期待したい。

学力向上対策については、特に学校に対する指導室の役割が重要と考える。学力向上プランを実施するにあたり、指導室と研究室の一体的な協力体制を更に強化し、しっかりと指導を学校へ行うべきである。また、学校長の教職員に対する指導強化も強く望まれる。今年度、区立学校適正配置実施計画が策定されるが、その実施に向けた地域説明については、理解を得られるよう努められたい。現在、幼小中一貫教育の研究に取り組まれているが、私立学校に対抗できる、墨田区独自のカリキュラムとして魅力ある教育内容に仕上げて頂きたい。

次に、観光まちづくりについては、押上・業平地区を中心として事業化されるが、観光客に対する地域の「もてなしの心」をもっと頂くためにも、情報の提供や地域の声に耳を傾ける積極的な姿勢が大事と考える。基本計画については、引き続き、国、東京都、東武鉄道側としっかり連携、情報交換をしながら策定に努められたい。景観においては、道路幅員や緑化も考えられているが、一体として電線の地中化も重要である。区は難色を示しているが、実施時期は別としても事業化すべきである。大踏切解消を東武鉄道とよく協議し、確約を取るべきである。

北斎館建設地については、地域の意見も聞き、総合的に判断すべきと考える。北斎館と地域が一体となったまちづくり策を望むものである。また、「郷土の誇り」として

北斎館を建設するのであるから、区民に幅広く理解を得られるように、フォーラム等を検討し、北斎を学んでもらう必要があると考える。

国民健康保険特別会計、老人保健医療特別会計については、共に制度安定維持を望むものである。また、法改正の実施にあたり、影響については、対策を講じられたい。

介護保険特別会計であるが、平成十八年、自立支援法が施行され、新たな認定結果による介護サービスの低下が生じた。とりわけ、障害者や弱者が利用していたベッドであるが、その対策として区は我が会派の要望について迅速に対応したことを評価するものである。また、引き続き、ケアマネージャーの育成、指導及び、適正な認定と認定に係る時間の短縮について更に努めて頂きたい。

いずれにしても、この三特別会計については、国の方針が大きく左右されるものである。従って、必要があれば国や都へ積極的に働きかけていくべきである。

以上で、平成十九年度各会計予算に対する会派としての主な意見要望を述べましたが、今審査における我が会派の全員の意見をよく斟酌し、冒頭にもある、新基本計画も含めて、今後の墨田区政運営に反映されることを強く要望するものであります。

尚、日本共産党の平成十九年度国民健康保険特別会計予算、介護保険特別会計予算、一般会計予算の編成替えを求める動議三件については、反対致します。

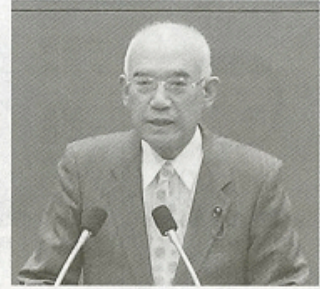


意見開陳する桜井浩之議員

第1回定例会での質問概要

平成19年2月1日～2月15日

代表質問



中村光雄幹事長

●新基本計画の財政収支見直しと現在の経済動向の見直しについて

問 平成19年度の墨田区各会計予算案は、総額一千五百四億八千六百万円と前年対比二・六％増、一般会計で九百五億三千百万円と前年対比三％増、そして、将来需要に備えて十億円の基金を当初予算に盛り込むなど、久しぶりに評価できる予算編成が出来たと受け止めているが、しかし、十七年度の基金残高は五十七億四千七百万円、標準財政規模に対する比率は九・九％で、いずれも二三区中の二三番目であり、他区に比べ極端に低い基金確保にどうなっているか。

答 現在の景気拡大基調は大企業を中心とした好況に支えられているといわれ、中小零細事業所が多い本区にあつては、まだまだ厳しい経営環境にあると認識している。

そうした中で、新基本計画における財政収支見直しでは、経済の成長率を一％、後期は0％と低めに想定し、より堅実な推進を行い、各種事業の計画化を図った。今後は、これに加え、タワー関連の事業計画も含めた財政運営を行うことによるが、これらの推進のみならず、少子高齢化や環境対策、教育に関する課題についても適切に対応していく。基金残高の問題については、行財政改革の積極的な取り組みや計画的な資金の積立、起債の発行抑制等を通じて、

財政基盤の更なる確立を図る。

●都区財政調整五課題について

問 去る一月の都区協議会で正式に合意をみたが、これは完全に都のベースに押し切られたもので、都区共通の財源であるという基本的な立場が切り崩されたのではないかと。

答 当初の五課題協議は、「都区のあり方検討」で地域の再編やその他に問題がすりかえられた。三位一体改革は都の主導的な考え方のもとに引きずられ、明らかに区側の完敗に終わったといわざるを得ない。特に、清掃職員の退職手当が五百億円が、別枠の二百億円に含まれているとは想定せず、この一連の騒動に最初から関わってきた山崎区長として、この結末をどう評価するか。今後の都区協議について特別区の主体性をどう発揮するかを含めて区長の考えを伺う。

問 五課題協議の経緯についてはご指摘のとおりですが、最終的には、配分率の拡大は将来の財源確保につながり、さらには事務移管によって特別区の権限の強化が図られることなどを勘案し、苦渋の判断として受け入れることとしたものである。

答 また、清掃関連経費については一定の結論をみていないが、これで全てが解決したとは考えていない。従って、19年度の基準財政需要額の算定に当たつても、ごみ費やピン・缶取集費などを見直しを提案し、百十九億円の算定改善を図った。今後も清掃関連経費の充実に努めてまいりたい。

都区協議に対しては、区長会役員として協議に臨んできたが、今回、都区のあり方検討委員会の実質的な協議を行う幹事会座長に就任したので、区側の主体性を発揮できるように協議に臨んでいく。

●北斎館の建設

問 北斎館の建設場所については、現在、亀沢二丁目に取得してある用地と比較し、北斎通りに面した緑町公園は、両国と錦糸町をつなぐ中央に位置した地域の重要な拠点であり、今後の観光まちづくりの主要道路として貴重な立地効果があると考えられる。また、地元の声も、現在の北斎館

用地よりも緑町公園の方が絶対良いという意見が多い。現在の用地を代替地として考えながら、都市公園法を所管する東京都の担当部門ともよく話し合い、前向きに検討するよう区長の決断を求めます。

答 北斎館を新タワーと共に本区の新拠点として建設したいと考えており、観光沿いの緑町公園に北斎館を建設することは、観光客の利便性の向上が期待できる。また、多目的公園の前提として活用できる可能性もあると認識しているが、地域住民、テナスコートの利用者、現在用地の近隣住民など、様々な方の理解を得ることが不可欠だ。今後の都市計画上の視点も含めた専門的な調査・検討を行ったうえで確定したいと考え、19年度の当初予算にもその経費を計上させていただいた。調査・検討の状況を議会にも報告し、最終決定をしたい。

●建築基準法の天空率問題について

問 いま区内各所で、マンション建設に關わる地域紛争が大変深刻な問題となつている。これは、国の規制緩和策による建築基準法の改正で、天空率算定という算定方法で、高さのある建築物が建てやすくなったことが要因である。区として、後背地の狭隘な道路で高さ制限を、地区計画による早期対策や墨田区における天空率適用除外規定など、条例改正による対応は考えられないか。

答 天空率を適用した建物により、既存の町並みの景観や住環境に悪影響を与えていることは認識している。建築基準法に規定された緩和措置であるため適用を制限することはできないが、都市計画を活用した用途地域として高度地区の指定や高さの最高限度を盛り込んだ地区計画を指定することで、天空率を使う効果がない状況をつくることがある。

来年度に景観基本計画を策定する予定にしているが、その中で、良好な景観を形成するための規制、誘導方策の一環として建築物の高さのあり方を明確にし、高度地区指定に向けた取り組みを行っていく。いずれにしても、地域の皆さんとの協働により良好な市街地形成のルールをつくっていききたいと考えている。

●認定こども園について

問 国は、昨年六月「認定こども園法」を制定し、これを受けて東京都は十二月に認定基準の条例を制定した。この制度は、国が就学前の児童の教育・保育ニーズに対応する新たな選択肢としてつくられたものだが、区内の公私立幼稚園や私立保育所について、「認定こども園」の認定を受ける施設が想定できるか。また、三歳以上の子どもも希望すれば午後保育を受けることができるか。地方裁量型の認定こども園はどのようなものか。本区の認定こども園の実現性はどうか。

答 認定こども園は、現在、認可を受けている幼稚園と保育園あるいは認証保育所が東京都の認定を受けるというもので、「幼稚園型」「保育所型」「幼保連携型」「地方裁量型」がある。認定を受けるには、職員配置、施設設備の認定基準を満たす必要がある。これをクリアすれば区内の施設でも設置が可能となる。

今回の基本計画で、認定こども園の整備を公設設置と位置づけ、教育委員会での幼稚園型について検討することはしているが、公設以外については、現在のところ私立幼稚園、私立保育園、認証保育所とも明確な意思表示をされておらず、現状はない。

認定こども園は、三歳以上の子どもについては午前中の幼児教育のみ利用する子どもと、午後の保育を含めて利用する子どもとがあり、午前中のみ利用する子どもであっても、保護者の事情で一時的に午後の保育も行うなど、多様なニーズに対応することも想定されている。

東京都の地方裁量型認定こども園は、認証保育所が東京都から認定を受けるもので、二歳児までの保育機能と、三歳以上の子どもにも幼児教育を実施し、都が運営費を補助することになっている。現在のところ区内では明確な意思表示をした認証保育所はない。

実現性については、現在、教育委員会を中心に幼稚園型の検討を進めているが、私立の幼稚園、保育園でも実施できる環境づくりを、関係者との意見交換を図りながら検討していきたいと考えている。

今期で勇退される 我が会派の議員

早川幸一議員
昭和46年の当選以来、9期36年にわたり区議会議員をお務めになり、「行政改革」と「教育改革」に全身全霊をかたむけ「燃える男」を全うされました。この間、墨田区議会議長を二期、後進の良き鑑としてご指導をいただきました。

松野弘子議員
昭和52年の当選以来、7期26年にわたり区議会議員をお務めになり、女性の気遣いをもって「子育て支援」「福祉向上」に力を注ぎ、「墨田区初の女性議長」として初代親子代の議長職を務められました。

中島常夫議員
平成3年の当選以来、4期16年にわたり区議会議員をお務めになり、本所中学一学生という地元育ちの利と、町会長との兼務という幅広い見識で、今期は区議会議長を立派に務められたことは、記憶に新しいところであります。

各議員におかれては、長い間の議会活動、誠にありがとうございました。そのご苦労に感謝と敬意を捧げるとともに、これからは、新たな立場で区政の進展にご協力をお願いいたします。



左から松野弘子、早川幸一、中島常夫各議員

躍進!! SUMIDA 自民党

今期、我が会派16名!!

4年間皆様の温かいご支援により、区政運営に全力で取り組むことが出来ました。まだまだ、ご要望に応えられないところもあります。16期にしっかりと引き継ぎをしてまいります。



西原文隆
〒三六二一九五七〇
新東京タワーで
墨田区の活性化を
2011年に新東京タワーが完成します。これを起爆剤として、区内全域に波及効果が及ぶよう頑張ります。



瀧澤良仁
〒三六一一四〇〇三
高齢者・障害者の
生活確保
子育て施策は区の仕事、区民生活は区が守る。更に、「生活の安定と安心を求めて、一層の努力をしております。」



早川幸一
〒三六二二七〇〇八
ありがとうございました
お陰さまで9期36年間の長きにわたり、ご支援を賜りました。皆様のご清福をお祈り申し上げます。



坂下修
〒三六二六二五二四
子育て支援、高齢者対策に全力を
いま、緊急の課題となっている子育て支援・高齢者対策に全力を尽くし、一層の行政改革に取り組んでまいります。



中沢進
〒三六一〇七四〇
子どもと高齢者を
守るために
私立幼稚園児の補助金を増やし、特別養護老人ホームを充実させるよう最大限の努力をします。そのための財政改革をやりぬきます。



阿部幸男
〒三六一七二二八四
25日は家庭の日
良い家庭に虐待やいじめはありません。住んで喜ばれる、やさしいまちづくりをやりましょう。



松野弘子
〒三六一〇三八六三
ありがとうございました
「すみだ童謡を歌う会」等、地道な活動で、これからは、区政の後押し、「住みたい街墨田」の為、頑張っております。



中村光雄
〒三六三三七七八七〇
勇気ある発言、責任ある
行動、確かな決断力
初心を忘れず、皆様のために働くことを生甲斐に。この気持ちを大切に、これからも全力で仕事をしてまいります。



田中邦友
〒三六一七〇一四
夢と希望もてる
墨田区を
夢と希望もてる墨田区を、次の世代へわたすため、私は、「区民が主役の区政」を信条として取り組んでまいります。



中嶋常夫
〒三六二二七八九四
ありがとうございました
皆様のご支援により、4期全うすることが出来ました。これからも何らかの形で、区民の方々へご恩返しをしてまいります。



出羽邦夫
〒三六二六五八三四
温故知新
日々の暮らしの中で、私たちは慣れや惰性で忘れてしまったことが多いのではないかと。故きを温ねて新しきを知る。古くて新しい事がこれからも大事だと思います。



木内清
〒三六二四八二三五
『清心・実行・活力』で、
これからもがんばります
区民と区行政の密接度が、みなさんに伝わる立場で仕事をします。



小池武二
〒三六一七三三八四
いきいき墨田をめざして
あしたの日本を担う、子どもたちの健全な育成のために「教育改革」と「子育て支援」を充実します。

編集後記
墨田区の今後20年間の流れを示す「墨田区基本計画」が今議会決定されました。16期からの新議員によって実践されていくのですが、我が会派は、数々の提案・決定してきた責任会派として、区民の付託をしっかり受けとめ、頑張っておりますので、我が会派議員の主張をお聞きいただけますようお願いいたします。今期でご勇退の、早川・松野・中島各議員には、長年のご苦勞に心から敬意を表し、これからも区政発展に尽力賜りますよう、お願いいたします。
(出羽邦夫)

自由民主党控室
〒130-8640
墨田区吾妻橋1-23-20
TEL 5608-1111 (内5611)
直通 TEL 5608-6315
FAX 5608-6416
[Eメール]
sumida_jimin@msn.com
[ホームページ]
http://jimin-sumida.jp



樋口敏郎
〒三六一七四二二九
活力と笑顔あふれる街
すみだの新タワー実現を活かし、次代につなぐまち・人づくりに全力を尽くしてまいります。



桜井浩之
〒五六三二七七五七
『意思あるところ道あり!』
強い思いをもってすれば、どんな困難な事でも道は開かれる。これからも前向きな姿勢で、問題解決へと全力で取り組みます。



沖山仁
〒三六一六一〇五〇
『仁政』
思いやりのある政治、情け深い政治、と辞書にあります。父は、私に何を期待して『仁』という名前をつけたのか……。